文化財ボランティア

火曜会通信

第１３号
発行日：平成１４年４月１日
発　行：伊丹市文化財ボランティアの会
発行所：伊丹市千僧１丁目１番地
伊丹市教育委員会事務局内

＜巻頭言＞　　『伊丹郷町と酒』

梶谷　文男

江戸時代の文豪・井原西鶴は「伊丹の酒　軒を並べて　いまの繁昌」と伝え、当時は７０数軒にも及ぶ造り酒屋が本町（現在の産業道路）を挟んで軒を連ねていたようである。

特に伊丹の諸白（濁りのない澄んだ酒：清酒）は、江戸で大変な評判で上等酒として扱われ庶民の口にはなかなか入らなかった。ことに１７４０年（元文５年）に伊丹酒は徳川将軍家の御膳酒に指定されている。その銘柄は剣菱・男山・菊剣菱である。また１７９８年には宮内庁御用達になったのは老松・富士白雪（白雪）・菊名酒である。このように伊丹の酒は、正に誉れ酒であったといえよう。

では、何故伊丹の酒が繁栄したのかその要因を探ってみたい。

① 丹波・丹後から酒男たちを集めやすい。
② 播州米・丹後米などの良質米が集めやすい。
③ 天下の台所、大阪に近い利。
④ 濁りのない酒の開発。
⑤ 良好な地下水の確保。等が挙げられる。しかし最大要因は、五摂家筆頭の近衛家が伊丹の領主（１６６１年）になってから酒造りに必要な保護、奨励策（製造の形態・地域の特定など）を執ったことであろう。繁栄期の伊丹の町は封建制の下であったが、元禄１０年（１６９７年）に惣宿老（町内取締役）の制度ができ、酒造業仲間たちが年番制で伊丹郷町を自治的に統制することが許されていた。

当時の大名たちは、参勤交代や幕府から命ぜられた普請、軍需品の購入などで財政的に窮迫し困っていた。そのため財政的に豊かな伊丹酒造業者から数千、数万両を借用したという。その範囲は南は対馬藩から北は津軽藩と全国に及んだというから、如何に伊丹郷町の酒造家の繁栄ぶりをうかがい知ることができる。その借金の返済は大名の蔵米（酒米）で支払われたという。良質米を保有する大名ほど借金の返済もスムーズに処理されたようである。伊丹の市章は「かにぼたん」であるが、これは近衛家の合印紋「かにぼたん」が使われている。伊丹郷町は寛文元年（１６６１年）から明治維新までの実に２００年の間摂家筆頭の近衛家の支配地として治められていた。先の市章は昭和１５年市制をひくとき近衛家の許可を得て縁の深い合印紋を制定したという。

参考文献：日本の名酒/酒は諸白/伊丹郷町物語/万有百科事典

主な行事予定（5月から７月）

◇　定例会　　☆　分科会日程は各会ごとに決定

５月２８日（火）	春季研修旅行「弥生文化博物館・他」	集合時間　8.50	
６月１１日（火）	市外研修事前勉強会「大阪歴史博物館」		中央公民館
７月　９日（火）	研究発表　「村の歴史・神津村」		中央公民館

<研究発表>　　年輪年代法について　　齋藤　篤義

考古学では石器や土器の形や特徴をもとに時代区分することが行なわれているが、基本的には相対的年代しか分らない。実際の年代を推定する根拠は、土器と共に出土した鏡など中国の青銅製品が手掛かりになっている。時代の長さを求められても、絶対年代（本当の年齢）は分らなかった。

絶対年代は発掘物の時代を自然科学的方法で求めた年代であり、放射年代測定法などで求めることが出来る。不安定な放射性元素の原子から放射能を出して崩壊する速度が一定であることから、岩石中の放射性元素や出土した植物体に含まれる放射性炭素から遺跡の年代が割り出される。しかし、測定量の僅少なことと最近の測定技術の進歩を考えても大きな誤差をともなうため、全面的な信用は無理である。

現在上述した方法以外には、時間と共に進行する反応を利用するか、一年毎に変化する性質を使う方法が考えられている。そのうち、日本でも木材の年輪の数、幅、密度が気温や雨量で変化することを用いた年輪年代法が脚光を浴びている。７０年程前にアメリカではじめてインディアン遺跡の木材から年代を決定することに成功し、世界的に広まった方法である。

日本では気候や地形が複雑なため、年輪の成長が各地の環境に影響され易く、共通のパターンを引き出すことが困難だとされていた。しかし、奈良文化財研究所の光谷拓実室長の永年の努力で二三の樹木についてBC900~1300までの年代の確定が可能となった。

遺跡で発掘される割合が圧倒的に多い檜（ヒノキ）・杉・高野槇の膨大な数の年輪を調べ、地形の変動によらない波形の特徴のみを抽出した、歴年標準パターンを作り出すのに成功した。発掘された材質の特定と樹皮に近い最終年輪が残されていることが必要な条件ではあるが、その材の年輪パターンが標準パターンのどの時代に一致するかを探せば良いことになる。1985年の信楽町・宮町の遺跡の調査で発掘ヒノキ柱が742年と判定「紫香楽宮」の宮跡であることを決定的なものにした。

弥生環濠集落・池上曽根遺跡の神殿跡から発掘のヒノキの柱根がBC52年の伐採木と判定、「土器編年」からの通説より100年も前のものだということになった。

東大寺仁王像の主要木材は完成２年前の1201年産ヒノキであることも判明している。上の例のように通説を否定する結果が議論を呼び起こしてはいるものの決して万能ではない。判明した年代は木材の伐採年であって使用されるまでの期間は誤差になる。木材の再利用によって年代は食違いを生ずる。

樹皮に近い最終年輪が残されていないと伐採年も求められない事にもなる。普通は加工されて使用されるので、表皮まで付いた遺物が少ないこと、生育条件で歴年パターンが得られないことも多い。しかし、発掘環境が良い条件に恵まれると現在を遡る西暦前1300年頃までの材木の伐採年が絶対値として一桁のところまで求められるというのは画期的な技法であるといえよう。願わくはそのような資料が発掘されることを祈るばかりである。

<市内史跡めぐり・ガイド支援>

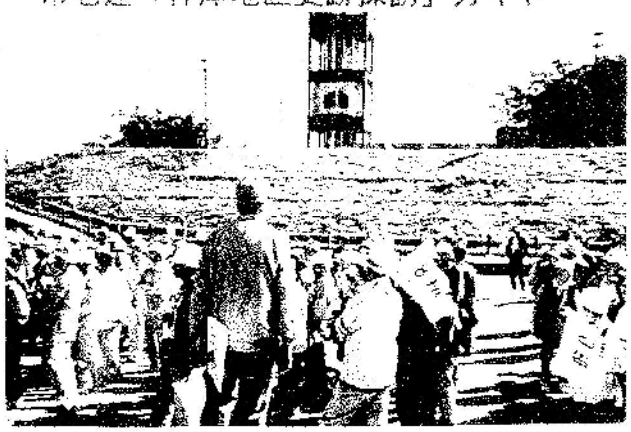
３月１７日　　文化財ボランティア養成講座　市民参加　　中尾・齋藤・西口・松本・池田利
内容　　春日神社/口酒井遺跡/田能遺跡/猪名寺廃寺/御願塚古墳

<いきいきディサービスでの支援>

３月１９日/４月２２日　　稲野小学校/　車塚センター　　池田利
内容　　ハーモニカ演奏とおはなし

写真で見る火曜会の活動・行事

市老連「神津地区史跡探訪」ガイド



伊丹郷町館ガイドスナップ

「伊丹の街道」南野神社での説明風景

市老連ガイド田能遺跡での説明風景

市外研修・小濱宿（宝塚市）南門前で

ハニワ工場公園（高槻市）での記念写真

春季研修旅行・今井まちなみ交流センター

秋季研修旅行・丹波篠山城大書院前

□　お知らせコーナー□

□　新会員の紹介

「文化財ボランティア養成講座」を終了され４月度より入会された方々です。共々に楽しく活動してまいりましょう。よろしくお願いいたします。

後藤　昌弘さん（池尻）谷光　洋子さん（千僧）田畑　久子さん（昆陽）森本　和郎さん（鈴原）

□　新任幹事の紹介

池田　利男さん（桜ヶ丘）酒井　かづえさん（伊丹）柴田　久子さん（昆陽）杉本　治子さん（千僧）
寺谷　守さん（大鹿）

以上の５名の方が新幹事としてご協力いただくことになりました。また、長いあいだお世話になりました前幹事のみなさまにもこころよりお礼を申し上げます。

□　伊丹郷町館ガイド再開のお知らせ

諸事情で中止していました、伊丹郷町館ガイドを再開します。みなさまのご協力をお願いします。**（５月定例会で詳細内容説明のうえ方針決定します）**

<リレー随想>　　**『文化財と俳句』**　　**鍛冶　繁子**

私のいちばんの趣味は俳句です。

会社勤めの夫の転勤で首都圏での転居を繰り返しました。新しい土地では必ず公民館を訪ね、講座をチェックします。そして目指す講座を見つけると早速入会ということに。

そんな私が俳句と出会ったのは５３才の時、栃木県の宇都宮でした。

２年で東京に転勤、ここでも句仲間と指導者に恵まれ、俳句の魅力にすっぽりはまってしまいました。２年後、東京を去る頃には俳句はいつもそばにあって私の活力源となったり、癒しとなっていました。

そして震災からの復興目覚ましい故郷・伊丹に２１年ぶりに戻ってきました。今は残された少しばかりの家並みに往時の思いを重ねた時、子供の頃の賑わいが走馬灯のように蘇ってきます。

伊丹の文化財、多いようで少ないながらも「伝えたい」「残したい」思いは募ります。この思いを現実として客観的に写生し、俳句に詠むこと、これこそ私の生涯学習です。火曜会で訪ねた名所、史跡を言い当てて下さい。皆さん、すぐおわかりになりますよね。

次回は**西口　征子さん**にお願いします。

亀石に湧き水のある薄暑かな
竹落葉酒船石を溢れしむ

境内に土俵の残る蝉時雨
早朝の鍔口叩く大暑かな

酒蔵の梁仰ぎけり文化の日
酒蔵の男柱やちちろ虫

大寒や町家の三和土踏みしめて

古文書を見せて貰ひぬ綿の花
石像の巨大頭部や小鳥来る

辻の碑の短き影や春浅し

紅梅やはのかんばせ重ねみて

小春日や行基菩薩の手にふれて